えすぽわーる

8
2015
No.156
—SHINHAKODATE—

えすぽわーる新函館はＪＡ新はこだてとみなさんを結ぶコミュニケーション誌です

JA新はこだて
http://www.ja-shinhakodate.jp/

親子3人並んで1枚。普段は、今年結婚したばかりの奥さまも作業に加わります。

道南をたがやす農す

豊かな尾ひれをなびかせる リュウキンのような優美な姿

農す ― 生きる力を体現した容姿、自然本来の鮮やかな彩り、四季折々で地域の景観であり続ける「農産物」と、それを生み出す「農業者」たちをシリーズで紹介していく。

【農産物】キンギョソウ

せたな町北檜山区二俣
二ノ田　敏和さん(38)
岩夫さん(72)
静枝さん(62)

「キンギョソウ」という特徴的な名は、一目瞭然、花の形に由来する。花びらの形、赤や白の色合いが、金魚そっくりなためだ。さらに、鈴なりに多くの花をつけるため、華やかさも格別だ。白や黄色、桃色などの色合いや模様のバリエーションも多く、幅広い用途で好まれている。意外なところでは、バイオ研究の実験材料としてもよく使われていて、特に八重咲きに関わる遺伝子の研究には大きく貢献している。

若松地区の二ノ田さんは、8年前にキンギョソウの栽培を始めた。地区の中では後発だという。それまで作付していた立茎アスパラの価格が下がり、他の作物を探していた時期だった。そこに、ハウスの補助を受けられることになり、転作を決めた。ご両親の肉体的な負担を軽くしたいというのも決め手のひとつだった。重い作物の割合を減らし、軽い物を中心にする考えだ。現在は稲作を中心に、ヒマワリやトルコギキョウといった花、馬鈴薯などの野菜を育てる複合経営をとっている。

作業のスタートは3月、セルトレイに播種する。4月に入って芽が育つと定植をする。小さな苗をひとつずつ、土に植えていく作業だ。順調に生育すると6月中旬～下旬ころに収穫となる。今年は気温が高く、6月10日ころがピークとなった。その後、これをもう1回繰り返し、年2回収穫する。

「花は、日々の細かな管理に本当に気を遣う」と二ノ田さん。温度や

①定植を待つセル成型苗。この小さな芽が3カ月で1メートル近くに育ちます。　②膨らみかけのつぼみです。抹茶をかためて砂糖をまぶしたような、おいしそうな質感？　③根元から切って収穫します。あっという間に1列収穫し終えていました。　④出荷前に、丈を80センチに揃えて余計な葉をとり、整形します。分担して効率よく作業します。

湿度、天候を見てはこまめにハウスの開け閉めをするという。風が吹くと茎は曲がり葉はこすれて傷むし、気温が上がると花の色づきが悪くなる。虫や病気も一度発生するとすぐに広がるため、防除が欠かせない。気の抜けない毎日が続いている。

えすぽわーる

NO.156／2015年8月号

CONTENTS

2 道南を農す

4 特集 地域の恒例イベント 夏祭りが各地で開催！

6 協同の力

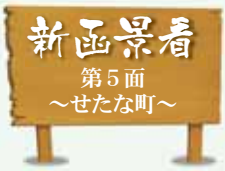
7 新婚さんハッピートーク ～ゴール＆スタート～

8 トピックス 「女性部リーダー研修・意見交換」他

11 Focus the JOB ～JAの仕事を紹介します～

12 あぐりレッスン

16 地産地食図鑑



「バラエティ豊か」というのが、せたな町農業の特徴のひとつです。北の白虎米でおなじみの稲作に加え、野菜や花、畑作、瀬棚地区では酪農も盛んです。せたなにお越しの際は、この看板のように多種多様な農産物をお楽しみ下さい。

特集 地域の恒例イベント
夏祭りが各地で開催!

季節は夏真っ盛り。融けるような暑い日が続いています。そんな日々を盛り上げてくれるのが、夏祭りですよね。毎年恒例で、楽しみにしている方も多いのではないでしょうか。
今回は、ＪＡや組合員が開催したお祭り、参加したお祭りをご紹介します。

第20回ＪＡ夏まつり ― 知内町

知内基幹支店が毎年開いているお祭りです。今年で記念すべき20回目を数え、地域に根付いた一大イベントです。木古内の組合員や職員も参加し、大いに盛り上がりました。

祭りの始まりは、勇壮な「中ノ川太鼓」。大人と子どもが力を合わせて、空気を振るわせる演奏を披露しました。その後、ゲーム大会や「にららちゃん」の踊りなど、子どもが楽しめるステージが盛りだくさん。さらに、知内そばの早食い競争や東一函館青果㈱によるセリの体験など、ＪＡならではのイベントも人気を集めました。

会場では、ＪＡ・青年部・女性部によるさまざまなお店が並びました。「はこだて和牛」やニラを使った「元気ソーセージ」、とれたての茹できみなどの、品々が揃えられました。子どもに人気のわたあめ、木古内地区女性部がつくった揚げたこやき、手作りのみそやかしわもちも用意されました。

当日はあいにくの小雨で、屋内での開催となりました。たくさんの方が集まって会場はいっぱいになり、来場客は思い思いにお祭りを楽しんでいました。

▶はこだて和牛と元気ソーセージを焼く組合員

▶和太鼓が会場に響きます

▶実行委員の吉田委員長

▶子どもたちの笑顔がはじけました

北の白虎米とヒマワリを販売

わっためがして大成～せたな町

◀華やかなヒマワリを手にして笑顔の家族

７月２５日、せたな町大成の「てっくいランド大成」で「がっぱり海の幸フェスタ in わっためがして大成」が行われ、若松支店と地区組合員が屋台を出しました。あいにくの雨天でしたが、地元の味覚を求めてたくさんの地元住民が集まりました。

屋台では「北の白虎米」のお米や清酒などを販売。じゃんけんでお米をもらえる企画を開き、多くの人に楽しんでもらいました。今年はヒマワリも用意し、家族連れの方を中心に人気となっていました。

会場では、もちまきや中学生による神楽、ヒラメつかみ取りなども行われ、盛り上がりました。

巨大メークインコロッケが大人気

ふるさと夏まつり～厚沢部町

◀大勢の来場客に見守られながら揚げられた巨大コロッケ。

７月２５日、「厚沢部ふるさと夏まつり」が役場前の特設会場で開かれ、組合員組織で屋台を出しました。女性部では、かたこもちやみそ、漬け物などの農産加工品を販売。青年部はメークインをはじめ大根やアスパラなどの野菜を取り揃え、米作振興会はふっくりんこを特別価格で販売しました。

たびたび雨の降る不安定な天気の中でしたが、多くの地域住民らが来場しました。祭の目玉にもなっている巨大コロッケには、町内産メークインを 300 キロ使用。その場で揚げられ、約千人に無料で振る舞われました。

七飯産ポテトフライ人気

第6回あかまつ街道納涼祭～七飯町

◀コロッケなどを屋台で販売

７月１１～１２日、あかまつ公園で「第６回あかまつ街道納涼祭」が開かれました。同町農林水産課が出店し、七飯支店職員５名が販売協力しました。

職員は、町内産「キタアカリ」を使ったポテトフライ、揚げたてのコロッケ、「ふっくりんこ」を使った米ドン菓子を１００円で販売しました。町内から訪れた主婦はポテトフライを食べ、「ホクホクしていて甘みがありおいしいです。米ドンは懐かしい味です」と笑顔で話しました。

このほか、会場にはふわふわドームやミニ新幹線などが設けられ、多くの町民が楽しんでいました。

地元の農産物を召しあがれ

北斗市夏まつり～北斗市

◀和気あいあいと屋台の準備にはげむ

７月２６日、北斗市の「エイド‘０３」で「北斗市夏まつり」が開かれ、北斗地区青年部が屋台を出しました。天候は少雨で持ちこたえ、多くの来場客で賑わいました。

屋台では地元産牛肉の串焼きや、キュウリや長ネギといった農産物を販売。まつり終了までに完売する大盛況となりました。また、フランクフルトやなどの定番の品も並び、子どもたちに人気でした。

会場では、漫画「北斗の拳」の「黒王号」が現れた山車行列、ずーしーほっきーの登場などのイベントが盛りだくさんで、大いに湧き上がりました。

予告

8月13日（木）
第20回 北の白虎まつり 開催

場所：せたな町北檜山区若松296 北の白虎ライスターミナル前（若松支店横）
時間：10:30～15:00 ころ　主催：若松基幹支店

ぜひ来てください！

1人ひとりの力を合わせ、大きな力に。〝協同の力〟で地域農業をけん引する組織を紹介していく。

販売額1億円の維持に向け、収量増・新規作付者の確保へ

桧山南部サヤエンドウ生産組合　1980年設立、部会員63人

●これまでの組合の歩みはどのようなものでしたか？

大口組合長　上ノ国町では30年以上前から生産されていて、組織自体もありました。大きな機械を必要とせず、経費も少なくて良いということで、町も推進していました。当時は、今の単価の倍以上で販売されていて、反収も良かったです。生産者も多い時で100名以上いたのが、今では60人程度と、年々減少してきています。

山口副組合長　さやえんどうの作付けは、祖父の代からずっとやっています。現在は、機械作業が主流となっている中で手作業が多く、手間が掛かるので根気がいる作物ですが、ブランドを守っていくためにプライドを持って取り組んでいます。

●サヤエンドウを作付けしている中での魅力は何ですか？

大口組合長　経費が少ないというのが魅力の一つです。他の作物であれば機械が必要となることも多いですが、サヤエンドウは違います。さらに、市場での販売についても「上ノ国のサヤエンドウ」として市場に認知もしてもらっています。そして、他産地も含めて夏場に出荷されているサヤエンドウの数量も少なく貴重だということで買い手もあります。販売単価も昔より低くなったものの現在でも高値で取引してもらっているので、高収益作物というのも魅力です。

●組合として、今後の課題などをお聞かせください

山口副組合長　生産者の高齢化により組合の人数が減ってきていることが課題です。若い農家が集まった時に「新しくサヤエンドウを始めて見ないか」と話をしたこともありましたが、機械作業ではなく手作業だということもあり、あまり乗り気ではありませんでした。しかし、上ノ国の独自ブランドで取引される品目はサヤエンドウしかないので、それを今後も守って行くためにも、若い人にサヤエンドウの魅力を今以上に伝えて、新たに作り始めてくれる人を増やしていきたいです。

大口組合長　組織としての高齢化もありますが、現在の販売額1億円維持も課題です。生産者が減る中で販売額を維持していくのは難しいことではありますが、生産者一人ひとりの収量を上げて販売額を維持していきたいです。そのために年に数回、勉強会なども開催しています。最近では、夏場に30℃近い日も続き、暑さに弱いサヤエンドウの管理には苦労していますが、生産組合の皆と切磋琢磨しながら技術向上に取り組み、収量を増やすことを目標に頑張っていきたいです。

〈取材　厚沢部支店　百澤　竜馬〉

大口勇 組合長（78）　山口公仁 副組合長（36）

新婚さん！ハッピートークゴール&スタート vol.5

結婚というゴールを迎え、新たな人生をスタートさせた二人の出会いから交際、結婚にいたるまでの経過を紹介していく

八雲町 大新
影浦　大地さん（25歳）
麻美さん（24歳）

【写真上】牛へのエサやり作業をする２人
【写真左】「子供は３人、１人目は女の子が良いです」と話してくれた大地さん（左）、麻美さん（右）。麻美さんは、トラクターなどの農機に乗っての作業もこなす。

反対されても熱心に説得し、結婚へ

●二人の出会い…

影浦大地さんと麻美（あさみ）さんは平成26年5月20日に入籍した。

２人の出会いは大地さんと大地さんの友達２人、麻美さんの４人でドライブに行った時。初めてのお互いの印象を大地さんは「口数が少なくて真面目な人」、麻美さんは「明るくて良くしゃべる人」と語る。その後、大地さんが麻美さんのキューピット役をしようと話を聞いた時に、麻美さんが自分のことが気になっていた事を知り、大地さんから告白。交際がスタートした。

●交際期間中…

１年間の交際期間中は、大地さんが月１回の休みを麻美さんの休みの日に合わせて２人で道内各地へ１泊２日の旅行をして、２人の仲を深めていった。一方、麻美さんは毎日、職場のある黒松内から大地さんに会いに来ていた。そうした麻美さんの姿を見ているうちに「根性があり、これなら俺にもついてきてくれる」と思ったことから意を決しプロポーズ。麻美さんは迷わず受け入れた。麻美さんは「付き合い始めた時から結婚したいと思っていたので凄く嬉しかった」とその時の気持ちを振り返る。

麻美さんの母親は最初「酪農は大変で苦労するのでは」と結婚に反対していた。しかし、大地さんが実際に作業しているところを麻美さんの母親に見てもらい、説得して結婚を認めてもらうことができた。

●これから…

大地さんは今後、「搾乳牛や預託牛など、今以上に増やしていきたい」と規模拡大に意欲を見せる。麻美さんは「動物などは元々好きで、常に家族で作業しているので楽しくできています」と話す。

最後に「今後は道内だけでなく道外にも旅行に行ってみたいです」と２人仲良く話をしてくれました。

〈取材　八雲支店　中村愛恵〉

女性部　リーダー研修会・常勤役員との意見交換会

ひざを突き合わせて議論する女性部員(右奥)とJA役員(左)

豆の流通を見学する女性部役員ら

女性部は７月１３日、リーダー研修会・常勤役員との意見交換会を開き、部員３２名が出席した。女性部の重要性が高まっている中、部員のリーダーシップを養成し、ＪＡとの意思疎通を図るのが目的。

リーダー研修会では、北斗市にある雑穀卸売業の㈱松田商店と北海道新聞の総合印刷函館工場を見学。自分たちが生産している豆類など農作物の流通について理解を深めた。

意見交換会では、輪島桂専務と西村安弘常務、職員らと議論を交わした。女性部からの理事登用を見据えた女性のＪＡ経営参画を中心に、農協改革や北海道新幹線への対応など、幅広い内容について話し合いが行われた。ほかにも、女性部員から米対策の先行きを不安視する意見が寄せられると、役員は「倉庫建設への補助など、長期的な目線に立って農水省へ要請をしていく」などと回答した。

６品目で日持ち性向上の認証
花卉生産出荷組合が取得

◀認証を喜ぶ川尻組合長(左)と七飯支店花卉課の白石係長(右)

花卉生産出荷組合は今年度、国による「日持ち性向上対策品質管理認証」を取得した。この認証は、花卉の日持ち性向上対策をする個人や団体に与えられるもので、昨年スタートした制度。

同組合は、カーネーション、アルストロメリアなど６品目を申請。採花、前処理、ハサミの洗浄などの審査に合格した。７月２２日から、出荷される花に認証マークのシールが貼られている。

川尻昌樹組合長は「これまでも日持ち向上対策には力を入れており、国のお墨付きを得る千載一遇のチャンスだった。今後も高品質な花の生産にまい進したい」と気を引き締めた。

全国のあか牛で最高賞を獲得
東出雅史さんの「はこだて和牛」

◀組合長(左)、専務(右)と並んで喜びを見せる東出さん(中央)

７月９日に東京都中央卸売市場食肉市場で開かれた「あか毛和牛認定農場枝肉共励会」で、最高賞にあたる「特別推奨牛」に、木古内町の東出雅史さんの牛が初めて選ばれた。同共励会は、あか牛の知名度向上と消費拡大を目的に、全日本あか毛和牛協会が開催。今年で４回目となる。

全国から２８頭が出品され、そのうち木古内町は３頭を占めた。東出さんが出品したのは２４月齢の雄牛で、審査員から脂肪のバランスや肉量が高く評価された。

東出さんは「毎日ブラッシングをして世話をした。日々の管理が受賞に結びついた」と喜んだ。

多種多様な農業を学ぶ
青年部が管内視察研修

◀前田部員（左）からアスパラについて説明を受ける役員

青年部は７月２１日、厚沢部町で視察研修を開き、役員９名が参加した。営農技術向上や部員間の交流を深めることを目的に、毎年行っている。

今回は南桧山地区の前田秀幸部員のアスパラガス、相良洋平部員のカボチャ、下川部和宏部員の牛舎を視察。経営形態や一日の農作業の流れについて学んだ。また、生育のコツや管理・防除方法の話題を中心に活発な意見交換が見られた。

髙橋陽一部長は「今回の視察を通じて、当ＪＡ管内の農業形態の多様さを実感した。地区を越えて互いの農業を勉強し、そして将来の仲間作りの場として、今後も続けていきたい」と話した。

他地区青年部との交流で絆を深める
若松地区・北渡島地区青年部が意見交換交流会

◀八雲町の特産品について学ぶ両青年部員

若松地区青年部５名と北渡島地区青年部１２人は７月１７日、八雲町で「意見交換交流会」を開いた。

まず視察研修として、情報交流物産館「丘の駅」を訪れ、観光や地場物産の情報発信を学んだ。続いて落部の小林幹至支部長の圃場で軟白ねぎなどを視察した。その後の意見交換では、テレビ番組企画への参加など、生産物のＰＲなどについて検討した。また、両地区とも農業体験型婚活イベントを開いており、実績や今後の改善策について活発に交流した。

北渡島地区の北村卓馬部長は「森地区とも交流会を開いており、この度、若松地区と実施できた。今後も多くの部員と交流し絆を深めたい」と話した。

自慢の愛牛を競う
第１４回八雲町・長万部町畜産共進会

◀乳牛の部で見事優勝を飾った笠原さん

八雲基幹支店は２１日、同町の畜産共進会場で、「第１４回八雲町・長万部町畜産共進会」を開いた。乳牛４４頭、黒毛和種１８頭が出陳された。

乳牛の部の最高位は、経産牛・未経産牛とも笠原正裕さんの「ユーエム　フラワー　エフノミカルウツテイー」（１１部）と「ジヨセフイン　スパークリング　エレベーシヨン」（６部）が輝いた。準最高位は、経産牛で１３部の佐藤元彦さん、未経産で２部の笠原正裕さんがそれぞれ選ばれた。

黒毛和種の部では、最高位に５部の田原隆行さんの「かつただはな」が、準最高位に４部の溝口友子さんの「まゆひめ」がそれぞれ選ばれた。

カップル３組が成立
せたな町農業青年婚活交流会

◀男女なかよく芋ほり体験を楽しむ

せたな町農村漁村結婚相談所は７月２５日～２６日、「せたな町農業青年婚活交流会」を開いた。町内の青年農業者６名（うち若松・瀬棚地区から３名）と、札幌市などから訪れた女性６名が参加した。

初日は自己紹介の後、大口寧さんの圃場で青年農業者が女性に指導しながら芋掘り体験を行い、夜には若松ポークマンなど特産品のバーベキューをしながら交流を楽しんだ。

２日目は男性陣が協力して作ったサンドイッチで朝食をとり、その後は町内のふれあいプラザでそば打ちを体験した。終盤の告白タイムでは３組のカップルが成立し、交流会は成功裡に幕を閉じた。

暑い夏を盛り上げよう！
函館競馬場にて米と地元野菜のPR

◀巻きずしづくりに熱中する親子。

米穀課とあぐりへい屋は７月１１～１２日、函館競馬場に出店した。函館競馬の開催に合わせた２日間限定で、米や地元野菜の消費拡大・ＰＲが目的。

会場では北斗市産の冷やしトマトやキュウリを販売。米の普及を図り、トマトカレーや焼きもち、夏にピッタリな「冷やし茶漬け」などを販売した。また、ＰＲ活動として、親子２０組を対象にふっくりんこを使った「ジャンボ巻きずしづくり体験」や２５０名限定の「ひと口巻きずし」無料配布を行った。

参加者は「巻きずしを作ったことがなかったので、とても勉強になりました。」と話し、イベントは大盛況で幕を閉じた。

野菜を食べて元気でいてね
北斗市の介護福祉施設に野菜を寄贈

◀入居者代表に農作物を手渡す澤田組合長（左）

北斗市野菜生産出荷組合は７月１３日、市内のある１９の高齢者介護福祉施設に地元産野菜を贈った。農産物の消費拡大や地産地消への支援に対する感謝をこめたプレゼント。トマト４９ケース（１ケース４㌔）や長ネギ２０ケース（同５㌔）を贈呈した。

澤田亨組合長ら６人は介護老人保健施設「いなほ」を訪問。「地元の新鮮な野菜を食べて１日でも長く元気でいてください」と呼び掛け、入居者代表にトマト５ケース、長ネギ１ケースを手渡した。

同施設の片岡和夫施設長は「丹精込めて作られた野菜を頂けて本当に感謝している。施設の皆が毎年楽しみにしています」と話した。

営農技術を切磋琢磨
若松で栄･栄石地区研修会

◀きたくりんについて説明を受ける参加者ら。

檜山農業改良普及センター北部支所は７月３日、「栄地区・栄石地区現地研修会」を開いた。農家１１名と関係機関職員１６名の計２７名が出席。圃場視察と関係機関からの情報提供が行われた。

視察では、地区農家のミニトマトや「きたくりん」の圃場、新規除草剤「フルミオＷＤＧ」の試験圃場を訪れた。その後、同センターから水稲や馬鈴薯・大豆などの生育経過や管理について説明。若松支店は主要水稲品種の昨年の生育推移などを説明した。

同センターは「水稲で利益を上げるためには、農薬節減米きたくりんの導入などさらなる省力化や効率化が必要」と、経営についても指導した。

ＪＡの仕事を実際に体験
七飯高校生がインターンシップ

◀商品整理に励む田代君

７月１６～１７日の２日間、七飯高等学校の２年生３人は、七飯基幹支店で就業体験を行った。生徒にＪＡや農業について理解してもらうことが目的。

１日目は、真空予冷施設などの農協施設を見学し、購買店舗にて商品や倉庫の整理を行った。２日目には、人参共選施設にて、人参の選別作業に励んだ。

就業体験をした田代慎太郎君は「祖父が農家なので、少しでも知りたいと思い、就業体験先に（農協を）選びました。農協の仕事は、畑に入って仕事をしているイメージがありましたが、実際に体験してみると、倉庫内や事務所内の仕事もあって、イメージと違い、勉強になりました」と感想を話した。

Focus the JOB ～JAの仕事を紹介します～

今回は知内支店営農センター。

組合員の生産性・生活の向上に努めます。

知内営農センターは、営農畜産課と生産施設課、生産資材課の3課から構成されています。当センターでは、知内ニラ「北の華」を始め、ホウレン草やトマトなどの施設野菜、「はこだて和牛」などの畜産物、水稲・大豆・そばなどの農産物など、多品目を取り扱っています。

営農畜産課では、担い手の確保と育成に向けた取り組みや補助事業に関する事務に加え、畜産販売業務を行っています。その他、農家経営の指導業務も行っています。生産施設課では、倉庫などの施設運営や管理、生産組織の運営事務や農産物の集荷・販売を行っています。生産資材課では農業資材の各種取りまとめや組合員への渉外推進を行っています。

これからも組合員が相談しやすい営農センターを心がけながら、組合員の所得・生産性向上に向けて、営農センター一丸となって頑張っていきます。

南瓜の現地研修会の様子

営農畜産課・生産施設課がある事務所

【連絡先】
上磯郡知内町字重内 66 番地の 102
TEL：01392-5-5511（営農畜産課）
FAX：01392-5-7171
TEL：01392-5-5914（資材課）
FAX：01392-5-6761

野菜の病害虫対策

渡島農業改良普及センター

【オオタバコガ】

（1）特徴

幼虫は茶色や黄緑色で、多くの種類の野菜を食害します。主に新芽や花弁などのやわらかい組織を食べ、老令幼虫になると蕾や果実に円形の穴を開け、内部にもぐり込み食害します。移動しながら次々に加害するため、発生数が少なくても被害が拡大する傾向にあります。

（2）防除

ア　幼虫が果実内部に侵入してしまうと、薬剤が幼虫にかかりにくくなります。ふ化幼虫を対象に早めの防除をしましょう。

イ　薬剤抵抗性が発達しています。薬剤選定に注意が必要です。

ウ　摘芽や摘果した残渣は、オオタバコガの発生源となることがありますので、放置せず、ほ場外に持ち出し適切に処分しましょう。

害虫の多発に注意し、早めの対策を心がけましょう

写真１ オオタバコガの幼虫

【灰色かび病】

（1）特徴

病斑部に灰色のカビが生えるのが特徴です。ナスやトマトなどの果菜類、葉菜類や花きなど、多くの植物に感染します。枯れた部分や傷口から感染しやすく、茎に発病すると病斑部より上が枯死することもあります。果実に発病すると軟化腐敗させるほか、トマトの果実では、ゴースト・スポットと呼ばれる黄白色の病斑を発生させます。

（2）防除

ア　適度に換気し、湿度を高くしないことが大切です。

イ　枯死葉や罹病果を常に取り除きましょう。

ウ　発病初期から治療効果のある薬剤の散布を実施しましょう。その際、薬剤耐性菌の出現を防ぐため、同じ系統の薬剤の連続使用は避け、ローテーション散布を行いましょう。

※発病前であれば、生物農薬の予防散布が可能です。

早期発見と早期防除を行いましょう。

病害は多発すると防除効果が低下します。

写真２ 灰色かび病による茎の病斑

写真３ 灰色かび病による
ゴースト・スポット

ホクレンSS サマーフェア2015
ONE PIECE
店頭給油（ガソリン・軽油）で
ホクレンSSオリジナル
北海道 地図&ガイド
プレゼント！
対象期間
7/15水 ▸ 8/31月
ホクレンSSオリジナル
北海道 地図&ガイド
表紙は選べる
3種類！
品切れの際はお選びいただけない場合がございます。予めご了承ください。
期間中の店頭給油（ガソリン・軽油）
50ℓ分のレシートで必ずもらえる！
「北海道 地図&ガイド」は十分にご用意しておりますが、品切れになる場合もございますので、ご了承ください。
第2弾
9/1火 ▸ 9/30水
期間中の店頭給油（ガソリン・軽油）20ℓ分のレシートで
ホクレンSSオリジナルワンピースプレミアムグッズなどが抽選で当たる!!
観光や道の案内も！特産物や旬の情報も！お気軽にホクレンSSへ!!
チャリティ募金に ご協力をお願いいたします
こどもはみんな、みんなのこども。
ラブ&ハート Love & Heart キャンペーン
7月15日水 ▸ 9月30日水

理事会開催報告

第6回　理事会（定例）　日時:平成27年7月24日（金）　午前10:30～　場所:北斗市農業振興センター

議 案
1号　コンプライアンス規程の一部変更について
2号　事務リスク管理規程の一部変更について
3号　コンプライアンス・マニュアルの一部変更について

第13回通常総代会での保留案件に対する回答及び今後の対応について

◆保留又は検討課題となった意見　◇回答及び今後の対応

※要約版でありますことを予めご了承願います。

◆農協を通さないで農産物を販売する組合員が少しずつ増えてきていると思う。組合員個人の多岐に渡る販売方法に対応する為、農協が代金決済の業務代行を行い、手数料を徴収することを、なぜできないのか。
今後、行えるように検討して欲しい。

◇組合が行う販売方法は、組合員からの無条件販売委託により販売し精算を行っております。
この販売方法は安定価格を図る為、各取引先市場等への需給調整機能も担っており、地場市場等取引業者への組合員直接搬入の個人仕切品の精算については、精算事務委託手数料を設定し対応しております。よって、この取引以外の精算代行は対応出来ないことをご理解願います。

◆職員の退職について、組合員へ知らせて欲しい。

◇該当支店より広報誌「えすぽわーる」配布時にお知らせすることで、取り進めいたします。

◆昨年から職員が12名依頼退職したとのことで、職員の精神的ストレスや業務上の苦労などを考慮して、負担がかかり過ぎないよう、経営者や管理職が管理して欲しい。

◇メンタルヘルス等全般に係る取り組みは、労働者と管理者で構成される安全衛生委員会を中心に、継続的な協議を取り進めて参ります。
また、業務並びに職場環境の改善を施すことを目的に、職員との意思の疎通を図るため、育成面接等で業務支援に取り組みます。

JA配置薬推進員交代のお知らせ ―知内・木古内・上磯・森地区―

知内・木古内・上磯・森地区を担当しておりました ＪＡ配置薬池田隆志推進員が６月末をもちまして、退職いたしました。
それに伴いまして、８月より岩崎麻理推進員が当地区を担当させていただくこととなりました。
今後も、なお一層のご要望に応えるよう努力してまいりますので、更なるご支援・ご愛顧とＪＡ配置薬のご利用をよろしくお願い申し上げます。

岩崎 麻理（いわさき まり）
〒049-0422 上磯郡木古内町
TEL：080-5724-0182
※お薬の不足の場合は
左記推進員までご連絡ください。

JA北海道厚生連配置薬部　※平日8:30～17:00
フリーコール(0120)-99-4193

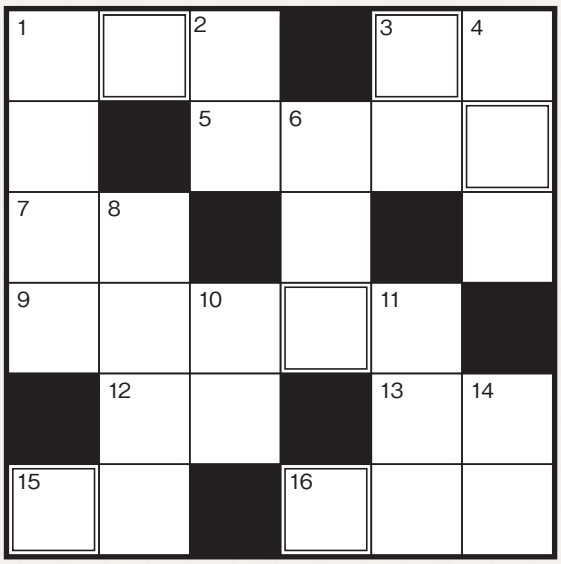
コミュニティ誌「しんはこ農K-now」創刊

准組合員・地域住民向けコミュニティ誌「しんはこ農 K-now（ノウ）」を創刊しました。創刊号ではＪＡについて知ってもらおうと、基本理念や事業の紹介などを掲載。各支店への配置、ＡコープやＳＳでの配布のほか、ホームページでも読めますのでぜひご覧ください。年２回発行を予定しています。

【お詫び】えすぽわーる7月号にて、全道窓口セールスコンクールに出場した八雲支店の「若山さとみ」職員を「若山ひとみ」と誤って紹介してしまいました。大変申し訳ございません。

みんなのまるめ邸広場

クロスワードクイズ



二重マスの文字を並べてできる言葉は何でしょうか？
中には今月号のえすぽわーるにヒントのカギがあるかも。

■ タテのカギ

1 ○○○○むけて生まれ変わる。
2 全然返事がない。○○のつぶて。
3 イタリア語で「万歳」。嬉しいときに使う言葉です。
4 バーベキューでも活躍する豚の脂。
6 「♪くもり硝子の向うは風の街」といえば何の指環？
8 今月の表紙を飾った花は○○○○ソウ。
10 円盤状の形を切り分けて食べます。
11 ○○○甘いも噛み分ける。
14 地域によって７月だったり、８月だったり。

■ ヨコのカギ

1 今年話題の芥川賞受賞作。
3 チラシのこと。
5 ５月のゴールデンウィークに対して、来月は○○○○ウィーク。
7 まさに今、夏のあいだのこと。
9 ホクレン SS で給油すると漫画「○○○○○」の地図がもらえます。
12 珍しい 10 円玉は○○10 と呼ばれる。
13 突起物のこと。○○イノシシ。
15 きれいな模様の○○紙。
16 そのままかじるより、絞る方が多い？

キーワードヒント 2人で力を合わせて。

プレゼント クイズの正解者の中から抽選で3名様に、以下の3種類からお好きな商品を3袋をお送りします。希望のプレゼントをご記入ください。

農協ラーメン（1袋2食入り）

農協のトマトカレー（1袋1食入り）

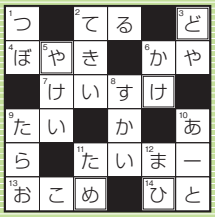
はこだて産本格いかめし（1袋2杯入り）

あて先 クイズ&投稿は、郵送またはFAX、メール、ホームページのメールフォームで受け付けております。

〒041-1201 北斗市本町1丁目1番21号
JA新はこだて企画室 FAX:0138-77-5566
✉ E-mailアドレス shinya.toda@ja-shinhakodate.com

7月号のこたえ

ひ や け ど め



クイズ当選者
八雲町熊石 トヨさん
北斗市 トマトバァーさん
森町 ラッキーさん

読者の声

✉ 厚沢部町 ソラパパ さん
海でおよぎた～い。
♣海、良いですね！そろそろ水温が下がるので気を付けてくださいね。

✉ 八雲町熊石 トヨ さん
活力ある農家の方々の記事を見ると希望がでてきます。組合員のところに届く「エスポワール」を楽しみにしてます。
♣読んでいただきありがとうございます。組合員さんとJA、地域をつなぐ広報誌でありたいと思ってます！

✉ 知内町 ジュン さん
プレゼントのパワーアップにびっくり!!一段とクロスワードのやる気アップです。トマトカレー食べてみたいです。
♣今回はごめんなさい！トマトカレーもいかめしもおいしいので、ぜひまた挑戦してみてください！

✉ 北斗市 トマトバァー さん
帯広にいる小2の孫がクロスワードと農協ラーメンのファンで時々送ってまーす!!
♣ラーメン当選しましたので、ぜひお孫さんと一緒に召し上がってください！

✉ 北斗市 おていちゃん さん
今トマトの最盛期です♡ 忙しいですが、美味しいの一言がうれしいです。
♣収穫、お疲れさまです！ 管内産のトマト、私もいつもおいしくいただいています。

✉ 森町 ラッキー さん
あぐりレッスン勉強になりました!プレゼント選べるようになったのでうれしいです(≧∀≦)
♣普及センターさんのプロの仕事には、頭が下がるばかりです。クロスワードも、ぜひまたご応募ください！

⬇応募用紙はこちら（切り取ってハガキにそのまま貼ってね。）

応募締め切り ８月24日（月）（当日消印有効）

※下記応募用紙には必ず全て記入して下さい。※コメントのないものは無効とさせて頂きます。

キーワード ☐☐☐☐☐☐

ご希望のプレゼント ※下記のいずれか1つに○を付けて下さい

農協ラーメン・農協トマトカレー・函館産いかめし

住所
〒 －

氏名 年齢 TEL
ペンネーム 才 － －

組合区分 正組合員・准組合員・その他 ※○を付けて下さい

コメント ※広報誌へのご感想やご意見・ご要望、身近なできごとなどについて教えてください。

キリトリ線

北斗産のトマトを使用した「トマトとベーコンのピザ」1,050円(税別)

広げよう！地産地食図鑑

★17品目★
トマトとベーコンのピザ

完熟トマトを使ったこだわりピザ

今月ご紹介するのは、「レストラン あど・りぶ」の郡山俊明店主が薦める「トマトとベーコンのピザ」です。北斗産の甘みたっぷりのトマトを使って、作っていただきました。店は大野中学校から徒歩3分ほどの場所にあります。

ソースに使うトマトは、常温で数日おいて完熟させたもの。みじん切りにした玉ねぎと一緒に、ペースト状になるまでじっくりと炒めます。生地にもこだわり、温度や湿度を細かく調節しています。お持ち帰りでも人気がある一品です。

郡山店主は「炒め置き、焼き置きはせず、いつでも出来たてのものをご提供します。予約もできますので、ぜひいらしてください」と話します。

真っ赤な北斗産のトマト

「ハンバーグやオムライスもおいしいです」と郡山店主

レストラン　あど・りぶ

住所：北斗市本町 5-3-29　TEL：0138-77-1515
営業時間：11:30 ～ 21:00（ラストオーダー 20：00）
定休日：水曜（祝日の場合は営業、翌日休み）

あど・りぶ Facebook ページ

編集後記

夏といえば怪談ですが、大学時代に住んでいた部屋で霊が出た（？）ことがあります。霊感のある友人が泊まりに来た日のこと。隣で寝ていた友人が夜中、急に眼を見開いて空中に向かってぶつぶつと何事か喋り出しました。私が声を掛けると正気に戻り、「寝ぼけていた」と言い訳しました。

しかし半年ほど後に改めて聞いた所、「おっさん2人と話してた」と白状。話の内容は覚えていないそうで、謎は残ったままです。ちなみに私には霊感がなく、何も見ずに卒業しました。（真）

えすぽわーる新函館
第156号　平成27年8月10日発行
発　行／新函館農業協同組合
住　所／〒041-1201　北斗市本町1丁目1番21号（北斗市総合分庁舎隣）
電　話／0138−77−5555（代表）
ＦＡＸ／0138−77−5566
編　集／企画室
印　刷／有限会社　三和印刷

JA新はこだて facebook
ＪＡ新はこだてホームページからもご覧いただけます。
こちらも、よろしくお願いします。

まるめ郎アルバム

いまさらですが、映画「そこのみにて光輝く」の聖地巡礼です。
さみしげな雰囲気…

「えすぽわーる」とはフランス語で「希望」という意味。「えすぽわーる新函館が読者の皆さんに希望を届ける広報誌になって欲しい」という願いが込められています。